11月 こころのねっこ 園だより

令和 8年 11月 1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 11月のねらい」
精進努力（しょうじんどりょく）

「寄り添ってくれる誰かがいること」

先日はつながるDAYにご参加いただき、ありがとうございました。
つながるDAYを迎えるまでに子ども同士が気持ちをつなげようとしている場面がたくさん見られましたので、少しですが、紹介したいと思います。



～その1～

グラウンドでかけっこを始めた3歳児。
その中で、一人ずっと下を向いて座り込んでいたA君がいました。
担任が声をかけても全く動きません。その姿を見つけた5歳児の女の子。

「走りたくないの？」　「ドキドキする？」
「一人は嫌なん？」　「一緒に走ってあげようか？」
「一緒に走りたいお友だちがいたの？」
「つかれちゃったの？」　「園庭で遊びたかったの？」

などと、なぜA君が走ろうとしないのか、下をじっと向いて動かないのか、A君の表情を覗き込みながら自分たちなりに思い当たる理由を探して、気持ちを聴いていました。この日、A君がかけっこをすることはありませんでしたが、つながるDAY 当日は、ドキドキしながらも一人でスタートに立つことができました。傍で寄り添ってくれる友だちの存在や、気持ちを受け止めてもらった経験が、A君の背中をそっと押してくれたのかもしれませんね。

～その2～



竹馬で障害物にチャレンジできるようにと設置していた梯子や坂道を見つけたりんご組の子どもたちが興味をもって遊び始めました。
そこへ5歳児が竹馬に乗ってやってきます。
5歳児が竹馬で障害物を超えていくたびに、りんご組の子どもたちは
パチパチ👏と手を叩いて拍手。
その拍手には「がんばって～！」「すごい！」と応援している様子が伝わってきました。応援を受けた5歳児も嬉しそうに、次の障害物へと向かって行きます。誰かの頑張りを受け止める気持ちや、自分の頑張りが誰かに届く喜びが育っていることを感じられました。幼い年齢でも応援したいという気持ちがしっかり芽生えていて、とてもほほえましい場面でした。

子どもたちは自分のやりたい遊びを存分に楽しむ中で、友だちとの関わりや遊びの世界を広げています。
最近では、クラスの友だちだけでなく、異年齢児との関わりもどんどん増え、遊びの場が豊かになってきました。
その中で子どもたちは相手の気持ちを想像する力や、受け止めようとするやさしさ、そっと支えたいと思う思いやりといった「こころのねっこ」を育んでいます。寄り添ってくれる誰かがいることで、子どもたちは安心して一歩踏み出せるのでしょう。
これからも、子どもたちが遊びの中で見せてくれる心の動きや小さな成長の瞬間を大切に見守っていきたいと思います。

（宇佐美）